

冬の温暖化で広がる ビワ栽培の適地を推定



ビワは秋冬期に開花し、厳寒期に結実します。ビワ幼果は低温にあたりと凍死するため、冷気がたまりやすい平坦地を避け、作業が大変な山の斜面で栽培されてきました。
本研究では、現地の気温と寒害の発生実態を調査し、ビワ適地マップを開発しました。

【寒害】 種子が凍死したビワ幼果の割合が2割以上となること



【栽培環境】山の斜面で栽培



作業性の良い平坦地での新植の参考に！

現状



凡例 (20年間中の遭遇年数)

- 適地 (0～2年)
- 準適地 (3～7年)
- 不適地 (8年以上)

将来予測 (2041～2050年)



過去20年間(2002～2022年)の年ごとの最低気温を推定し、品種「大房」に寒害が発生する-4.02℃以下に遭遇した年数から栽培適地を分類(国土地理院地図にマップを重ねて表示)

メッシュ農業気象データ気候変化シナリオ(RCP8.5,農研機構)より、2041～2050年の南房総地域の日最低気温が0.51℃上昇すると想定し、現状マップから作成

